

ひょうごのレッドリスト展 ～哺乳類・爬虫類・両生類・魚類～

期間：令和元年 10月 12日（土）～
令和2年 1月 5日（日）
会場：兵庫県立人と自然の博物館
2階ひとく多様性フロアほか

レッドリストは、絶滅のおそれのある野生生物のリストで、世界的には国際自然保護連合（IUCN）が、また日本では環境省がまとめたリストが有名です。兵庫県でも「兵庫の貴重な自然－兵庫県版レッドデータブック－」が1995年に公表され、県に生息する野生動植物のほか、地形、地質、自然景観においても、貴重性の程度が評価されました（レッドデータブックは、レッドリストよりも詳細な情報を記載した出版物です）。このようなリストは、保全や環境教育を行う際の重要な基礎資料として、活用されています。

兵庫県版レッドリストは、2017年にいくつかの分類群について改訂が行われました。今回の企画展では、この改訂版に基づいて哺乳類・爬虫類・両生類・魚類の絶滅危惧種を、標本や写真を使ってご紹介します。また、2017年の改訂後に新知見が得られ、将来新たに掲載される可能性のある種の紹介もします。本稿では、特徴的な4種をピックアップして、一足先にお届けします。なお、文中に出てくる兵庫県版レッドリストのランクは、以下の通りです。

Aランク

環境省レッドリストの絶滅危惧Ⅰ類に相当

Bランク

環境省レッドリストの絶滅危惧Ⅱ類に相当

Cランク

環境省レッドリストの準絶滅危惧に相当

要注目

貴重種に準ずる種

要調査

評価するに足るデータがない種

ツキノワグマ 絶滅危惧種から要注目種に

兵庫県のツキノワグマは、1990年代には絶滅の危機に瀕していました。しかし、20年間の狩猟禁止と2003年から始まった保全政策によって個体数が回復し、現在では800頭を越すと推定されています。このため、2003年のレッドリストではAランクに評価されていましたが、2011年にBランク、2017年の改訂では要注目になりました。このような個体数回復によるランクの変更は珍しく、喜ばしいことです。



写真1
ツキノワグマ 森林動物研究センター提供

朝来市で見つかった幻のミズラモグラ

ミズラモグラは全長10cm程度の小型種で、兵庫県の周辺では中国山地（鳥取、岡山、島根、広島）と丹波高地（滋賀、京都）で見つかっていました。そのあいだに位置する兵庫にも生息すると思われていましたが、証拠がなかったため前回2003年のレッドリストには入っていませんでした。しかし、2014年に朝来市で発見され、県内での生息が確認されました。それでも、土の中の生き物を調べることは容易ではありません。

正確な分布は謎のままなので、2017年の改訂では要調査にランクされました。なお2016年には、本種をもとに、本州固有の独立属（*Oreoscaptor*）が設立されました。



写真2
ミズラモグラ 栃本武良氏提供

実は9種だった！ カスミサンショウウオ

カスミサンショウウオは長年、愛知県以西に1種のみが生息するとされていました。ところが今年2月、DNAの配列や形態・生態の比較により、9種に分けるのが妥当とする論文が発表されました。兵庫県では、このうちセトウチサンショウウオが瀬戸内海沿岸に、ヒバサンショウウオが宍粟市に、サンインサンショウウオが新温泉町に生息することが分かっています。



写真3
セトウチサンショウウオ 見澤康充氏提供

2017年改訂のレッドリストでは、広義のカスミサンショウウオはBランクとされていました。今回の新たな分類により、今回の改訂では各種の扱いの詳細な検討が必要になりました。

最近記載された希少種 ナガレカマツカ

カマツカはコイ科の淡水魚で、川底で小動物などを食べています。この魚もかつては1種とされ、2017年改訂のレッドリストではランク外とされていました。しかし、今年4月に発表された論文で2新種（ナガレカマツカとスナゴカマツカ）を含む3種に分けられました。兵庫県では狭義のカマツカのほか、ナガレカマツカも生息しています。しかし、現在知られている分布は非常に限られるため、将来レッドリストに加えられるかも知れません。なお、ナガレカマツカはカマツカより流れの速い環境を好むため、その名がつけました。



写真4
ナガレカマツカ 富永浩史氏提供

本企画展では、この他にも多くの種をご紹介します。また、表紙にある絶滅危惧種ニッポンバラタナゴなど、魚類を中心とするいくつかの種について、生体の展示も行う予定です。ぜひ、兵庫の野生生物の現状をご覧にお越しください。

高橋 鉄美（自然・環境マネジメント研究部）